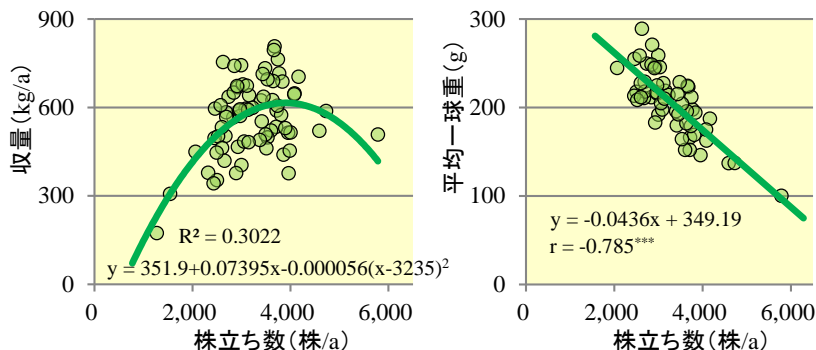


直播たまねぎの収量安定化のために

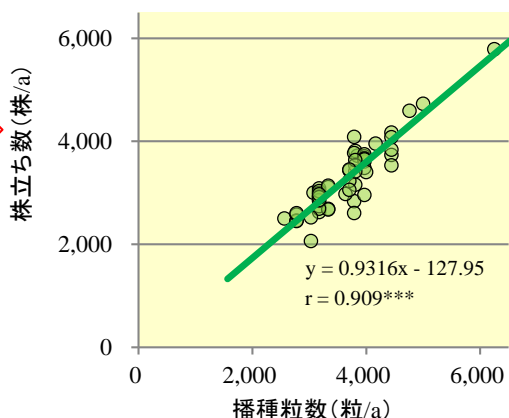
直播たまねぎの収量安定化のための播種粒数や、欠株の主要因であるハエ類の被害低減方策などを明らかにし、たまねぎ直播栽培体系(2012)を改訂しました。

最適な播種粒数の設定



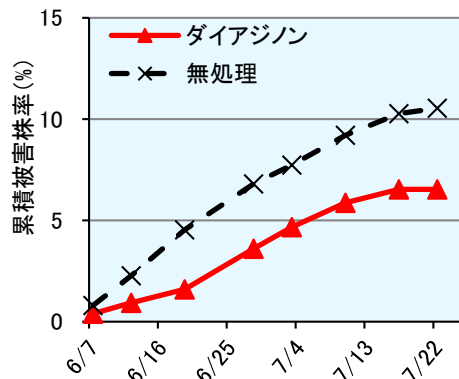
収量が最大となる株立ち数
3,900株/a

平均一球重が ≈ 200 g(L規格相当)となる株立ち数
3,400株/a



株立ち数3,400~3,900株/aを得るための播種粒数
3,800~4,200粒/a

ハエ類の防除対策



ダイアジノン粒剤処理により、
一定程度被害の抑制が可能



ただし、最低でも**株間9.5cm以上**を確保する。
必要な株間を確保するため、従来と同じ播種作業幅(1.2m)に対し、**5条播種**(従来は4条)がお勧め。

たまねぎ直播栽培体系(2016年改訂部分を抜粋)

項目	内容
1. 品種	既存品種の中では「オホーツク222」および「北もみじ2000」が安定している。他に「ウルフ」*「パワーウルフ」が使用可能である。同一品種では移植栽培に比べ生育が2~3週間遅れる。 *:倒伏前から根傷みを伴う著しい葉先枯れ症状が生じ、球肥大不足となる事例があった。
4. 播種粒数(栽植密度)	播種粒数を移植栽培より多い3,800~4,200粒/aとする。そのためには播種作業幅1.2mに対し5条植えとし、畝幅24cm(播種作業幅1.2m)×株間10~11cmとする。なお、4条植え(畝幅30cm)で実施する場合にあっては、播種粒数3,800粒/aには満たないが、球肥大確保のため株間9.5cmとする。
6. ベタがけ被覆	不織布によるベタがけ被覆は、降雨時のソイルクラスト軽減、土壤水分保持、地温上昇などによる、出芽および初期生育の促進や生育の前進が期待できるため、気象や圃場の条件により実施を検討する。ただし、必ずしも増収効果に結びつくものではない。また、著しい高温・干ばつ条件下では高温障害による枯死株が発生することがあるが、減収のリスクは小さい。
9. ハエ対策	対策として、当面、ダイアジノン5.0%粒剤の播種前全面土壌混和処理を行う。